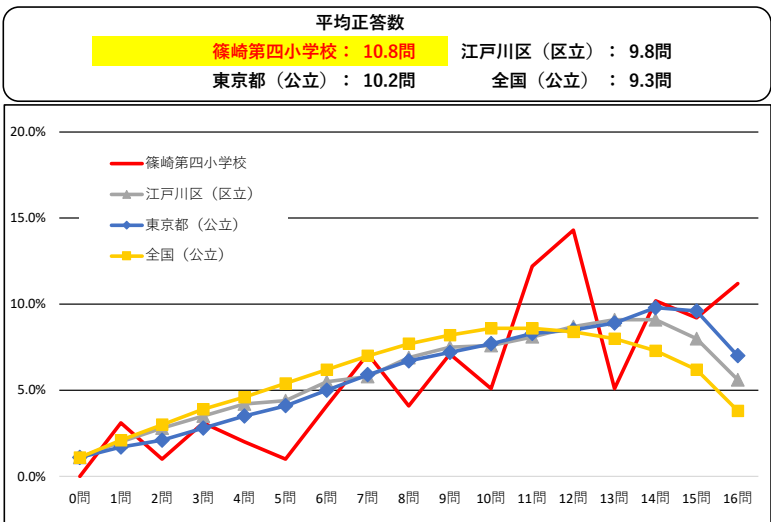


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【算数】江戸川区立篠崎第四小学校

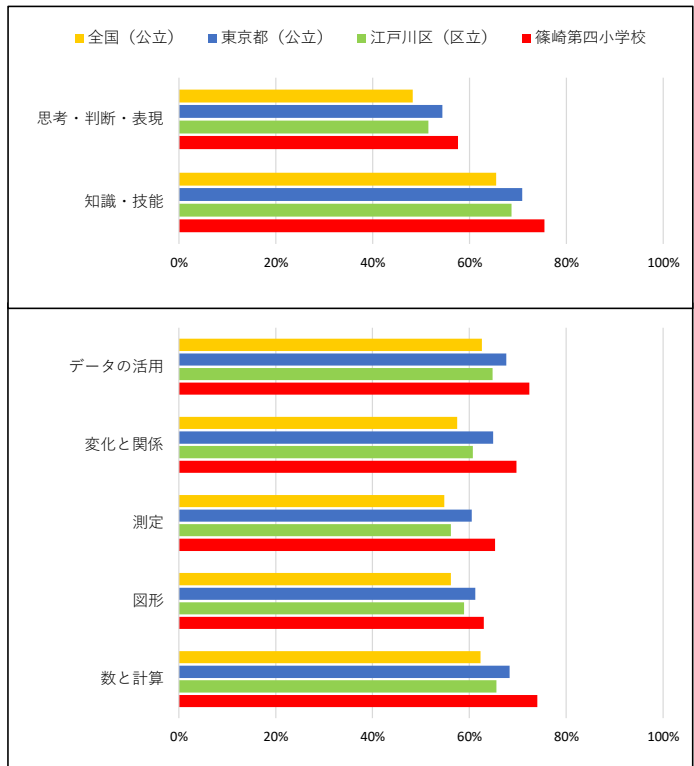
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

篠崎第四小学校	68%
江戸川区（区立）	61%
東京都（公立）	64%
全国（公立）	58%
都との差（ポイント）	4.0

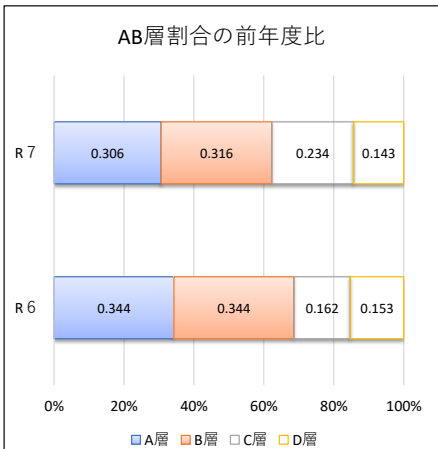
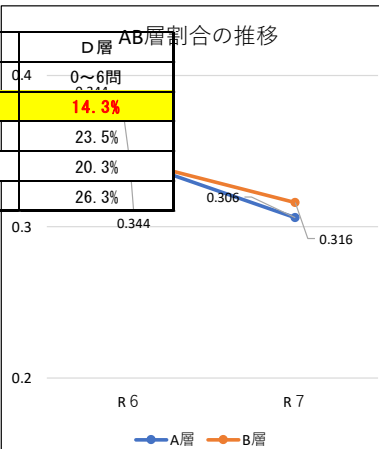
「領域別」の結果



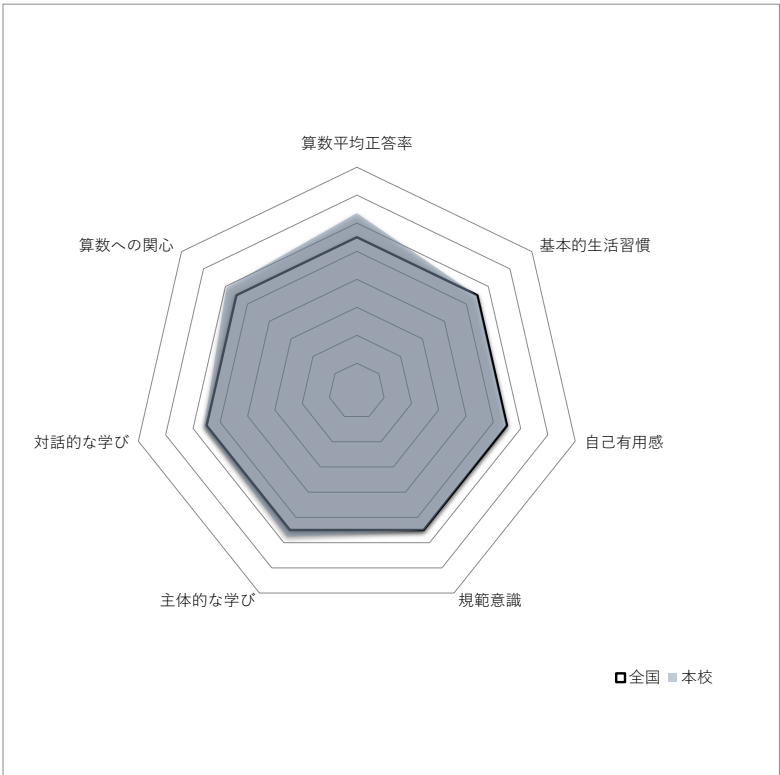
四 分 位 に お け る 割 合 （ 都 全 体 の 四 分 位 に よ る ）

算 数	上 位 ← → 下 位			
	A層 14～16問	B層 11～13問	C層 7～10問	D層 0～6問
篠崎第四小学校	30.6%	31.6%	23.4%	14.3%
江戸川区（区立）	22.7%	25.9%	27.9%	23.5%
東京都（公立）	26.4%	25.7%	27.6%	20.3%
全国（公立）	17.3%	25.0%	31.4%	26.3%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都（公立）のデータを基に定めている。



各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



《チャートの特徴》

- ・平均正答率は、全国・東京都・江戸川区より、高くなっている。
- ・算数への関心や主体的な学び、対話的な学びは、全国と比較して肯定的な回答が多くなっている。
- ・基本的な生活習慣や自己有用感等の肯定的な回答は、全国と比較して1～2ポイント低くなっている。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・家庭と学校で連携し、「ドリルパーク」や「家庭学習の手引き」等を活用している。
- ・「江戸川っ子 Study week!」を年間3回実施している。
- ・学校ホームページや保護者会等で児童の実態を公表し、学校と家庭、地域で連携して取り組んでいる。

《現状把握》

- AB層の割合と取組内容について
- ・令和7年度のA層とB層の割合は、令和6年度と比較して、それぞれ-3.8ポイント、-2.8ポイントとなった。AB層の合計でも-6.6ポイントであり、C層の割合が7.2ポイント増えた。
- 東京都との比較では、平均正答率は、+4.0ポイントとなっている。

《学校の取組》

- ・教員の指導力向上
- ・校内研究で、教員の授業力を向上するために算数科を中心として、授業の構造化を図り、ユニバーサルデザインを取り入れた授業改善を行っている。
- ・教師の「問い返し」により、学習を深める指導の工夫について研究をすすめている。
- ・自力解決の工夫について、全学年で取り組んでいる。

・基礎学力の保障

- ・児童の基礎学力を保障するために、児童の実態に応じ、2年生から少人数指導を展開している。
- ・個別最適な学びの実現を図るために、一人一台タブレット端末を活用している。
- ・児童の実態を把握し、基礎的・基本的な学力を身に付けさせるために、週一回、ベーシックタイムを設定し、東京ベーシック・ドリルを行っている。
- ・CD層の学力向上を図るために、放課後学習教室担当者と児童の実態と指導内容の共有を図っている。

・学習習慣の確立

- ・学習習慣を確立させるために、「話す」「聴く」を中心とした学習の仕方を徹底している。
- ・学習規律を身に付けさせるために、「篠四スタンダード」を各教室に掲示し、意図的・計画的に指導している。
- ・家庭学習の習慣について、家庭と連携して取り組んでいる。

・AB層の育成

- ・既習事項から解答を導く方法を考えたり、効率的な考え方を選んだりできるような問題解決的学習を行う。
- ・一人一人の学力を伸ばすため、児童の実態に応じた課題や教材等を活用している。
- ・学習過程において、自分の考えを分かりやすく説明する場を設けている。
- ・学習内容の理解を一層深めたり、広げたりする指導を行っている。